

社会、人とつながる大切さ

「今、わたしが思うこと」をテーマにした「学生2026プレゼン大会」が、諫早市東小路町の市立諫早図書館であった。大学生3人、中学生2人、小学生グループ1組が、地域活動や学校生活を通して感じた、社会や人とつながる大切さを語った。

同館の「諫早をしよう」第34弾。約80人が聴講した。県中小企業家同友会諫早支部で産学官金の連携を進める委員会(みらいつなぐSGKK)が18日に初めて開いた。同委員会は、経営者と学生が将来の目標を語り合う「おしゃべり会」を開き、若い世代の社会協働活動を支援している。

鎮西学院大3年の野中智弘さん(21)は、同市高来町で取り組む子ども食堂や自然体験活動を

諫早図書館 小中、大学生がプレゼン



地域の人や食の魅力を語る野中さん

|| 諫早市立諫早図書館

紹介。「おいしい食べ物や地域との深いつながりが諫早の魅力。それを生かすためには一人一人が諫早をもっと発信してほしい」と述べた。

市内の民間卓球場に通い始めたことで自身の変化を明かした市立諫早中2年の古賀大翔さん(14)。「初めは世代が違う人と話せなかったが、勇気を出して話しかける努力をした。いろいろな人と話すことで世界がもっと広く感じられ、人生が楽しくなった」と笑顔を見せた。

久山町の「学童保育くやまkids」に通う市立真津山小4年の8人は、架空の会社をつくり、デジタル漫画を制作した感想を発表。役割を分担し、限られた時間で協力した経験を通して、挑戦する大切さを学んだという。
(高比良由紀)